

2007. 06. 24.

第56回アブダクション研究会開催のご案内

アブダクション研究会
世話人 福永 征夫
TEL & FAX 0774-65-5382
E-mail jrfd117@ybb.ne.jp

第56回アブダクション研究会の開催について、下記の通りご案内を申し上げます。

(1) 前回は、[デイヴィッド・S・ムーア著『遺伝子神話の崩壊』(池田清彦訳・徳間書店刊) から学ぶ] というテーマで、尾上・太田・西尾・花村・大熊・伊藤・小島の各氏が、それぞれの個性を見事に発揮して、説明を果たされました。この書物は、生物の発生システムで見られる、環境的要因の関わる、多種多様な事例を、鋭く切り分けて、しかも、それらを包括的にまとめ上げ、理解しやすい、説得的な解釈を示すことに成功した、大変な良書だと言えるのではないのでしょうか。世話人には、再度、勉強したくなり、しなければならない一書だと思われます。

デイヴィッド・S・ムーアの主張の要点は、

- ①生物の形質の決定において、遺伝子は重要だが、遺伝的要因も環境的要因も、形質の発現にとって不可欠なものであり、両者は、本質的に等価である。
- ②多くの人は、生まれた時点で備わっている特徴を、遺伝的に決定されている生得的なものと考えがちだが、胎児の時の環境要因の重要性を考えると、これは当たらない。例えば、生まれたばかりのヒヨコが母親の鳴き声に反応するのは、あたかも、遺伝的要因のみによって決定されているように見えるが、実は、卵の中の孵化前のヒナが、自分自身の鳴き声を聞くという経験が関係している。
- ③主流の進化論では、ランダムに生ずる遺伝子の突然変異だけが進化の原資であり、変異遺伝子の集団における頻度が、自然選択 または、偶然という遺伝的浮動によって増減することをもって、進化とみなしている。
- ④ところが、自然選択は、遺伝子だけに関わるわけではなく、環境的要因にも作用するのである。全ての形質は、遺伝的要因と環境的要因の相互作用の結果が、自然選択されて、獲得された形質であり、このようにして獲得された形質によって、生物は進化するのである。

(2) また、新たなメンバーとして、ジャーナリストで翻訳家の齊藤秀正氏、東京農工大学の満倉靖恵氏、同大学博士課程の伊藤伸一氏の3名の方々に参加されました。アブダクション研究会の益々の進展のために、末永く、ご指導を賜り、ご活躍を頂きますよう、心より、お願いを申し上げます。

(3) さらに、分科会では、伊東義高氏が委員長を務められる『知の分科会』が、活動を開始し、5月20日に、伊東・江崎・花村・満倉の各氏および福永の5名のメンバーからなる、第1回の会合が、有楽町駅前の江崎事務所で行われ、興味深く、有益な、やり取りが、活発になされました。

既存の領域的な知をベースにして、新たな領域的な知を探索し、それらを広域的な知に組み換えて、より高次の領域的な知を仮説設定的に発見することを目標に、アブダクション研究の飛躍を期して参りますので、各界、各分野の皆様の積極的なご参加をお願いします。

記

◇ 日 時： 2007年7月19日（土） 13：00～17：00（例会）
17：20～19：20（懇親会）

◇ 場 所： 日本電気厚生年金基金会館 『2F・大』会議室（中山氏のお名前で申し込み）
東京都 世田谷区 代沢5丁目33-12 電話：03-3413-0111（代）
* 小田急線/京王・井の頭線 下北沢駅 下車 徒歩約8分
* 会場地図をご希望の方は、事務局・太田までご連絡下さい。なおグループメールメニューのブリーフケースの「NEC 厚生年金会館MAP」でもご覧いただけます。

◇ テーマ： 研究発表 大河原 敏男氏
レイチェル・カーソン「沈黙の春」とアブダクション

図書案内：『沈黙の春』レイチェル・カーソン・青樹訳・新潮文庫

◇ プログラム：

（1）諸連絡	13：00～13：10
（2）研究発表	
PART [1]	13：10～14：25
— 休 憩（5分）—	
PART [2]	14：30～15：45
— 休 憩（5分）—	
（3）総合的な意見交換	15：50～16：50
（4）その他の連絡事項	16：50～17：00
（5）懇親会（楽しく勉強になります。是非積極的にご参加ください）	17：20～19：30

